

プログラム番号	06035
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	京都大学大学院工学研究科		
②学長名	尾池 和夫		
③所在地	〒606-8501 京都市左京区吉田本町		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	国際部留学生課教育支援グループ	
	担当者氏名	中村 義行	e-mailアドレス y-nakamu@mail.adm.kyoto-u.ac.jp
	電話・FAX番号	075-753-2489(TEL), 075-753-2562(FAX)	
⑤ホームページ URL	http://www.kyoto-u.ac.jp/		
⑥大学院在学留学生数	1,020人(うち、国費留学生 446人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	工学研究科博士後期課程総合工学特別コース
②プログラムの形態	博士後期課程(3年間)
③実施研究科・専攻	工学研究科 社会基盤工学専攻
	(所在地) 〒615-8530 京都市西京区京都大学桂
④連携大学・研究科・専攻名	都市社会工学専攻、都市環境工学専攻、建築学専攻、機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻、航空宇宙工学専攻、原子核工学専攻、材料工学専攻、電気工学専攻、電子工学専攻、材料化学専攻、物質エネルギー化学専攻、分子工学専攻、高分子化学専攻、合成・生物化学専攻、化学工学専攻
⑤受入れ学生数	21人(うち研究留学生優先配置人数: 15人) (うち日本人学生数: 人)
⑥担当教員数	合計 284人(うち専任: 257人、兼任: 4人、非常勤: 23人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 工学研究科・工学研究科長
	研究科長名 西本 清一

【3. プログラムの内容】

1. ミッション

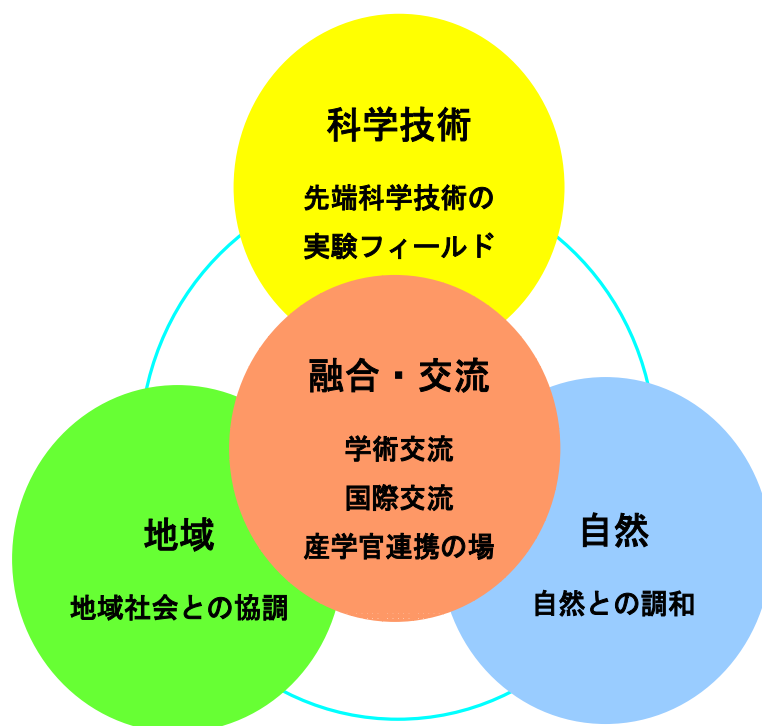
世界各国から優れた資質と意欲を有する人材を集め、世界最高水準の教育研究環境の中でその能力を涵養し、世界を先導する研究・教育・指導能力を有し、世界の科学技術の発展に寄与できる国際人を養成することを目的とする。特に、専門分野における世界最高水準の研究能力に加えて、工学領域を横断する分野における幅広い学識の双方を併せ持つ「総合工学」研究者を養成する。さらに、工学研究科における大学院教育実質化の他の取組みと連携して、わが国と留学生出身国との技術・研究協力体制を醸成する、国際「人的資源」形成に寄与する人材を戦略的に育成し、支援する体制を整える。

2. プログラムの内容

個別研究指導による先端課題における博士学位論文研究指導に加えて、各領域の各論指導、さらには専攻の枠を越えた工学領域を横断する指導にいたる、広範なカリキュラムを提供する。特に京都大学博士号に要求される極めて高い水準を維持しながら、標準修業年限で円滑に学位取得するために、入学時から綿密な指導体制を構築し、実質的な大学院教育プログラムを実践する。さらにこうしたカリキュラムに加えて、留学生の学修生活を支援するとともに、修了後も含めた長期にわたる留学生と本研究科の連携関係強化のための施策を実施する。

3. プログラムの特色

(1) 世界をリードする科学技術創造拠点



本研究科には、工学のほぼ全領域を網羅する17専攻を擁しており、これまで様々な世界的な業績を挙げてきた。また、桂キャンパスは、異なる学問分野間の交流や世界各国の大学との国際交流を推進するとともに、産業界や公的研究機関、地域社会との間に垣根のないバリアフリーなキャンパスであることを目標に掲げています。これらの最前線で活動する国際融合センター（京都大学ローム記念館）と桂インテックセンターを中心に、隣接する桂イノベーションパークの京大桂ベンチャープラザや研究成果活用プラザ京都との連携を通じて、創造的で提案型の先端科学技術を社会に還元する研究拠点である。発展途上国に限らず、先進国も含めた世界各国からの多様かつ優秀な留学生の受入れが期待される。

(2) 歴史的都市環境

京都は、わが国を代表する豊富な文化的・歴史的資産が身近に存在し、わが国を代表する歴史や文化を体験できる他に例を見ない豊かな環境に恵まれている。留学生が研究のみならず多様な側面においてわが国の歴史や文化に親しみ、それらを日常的に体感することを介して、幅広い国際交流の担い手として育つ素地が極めて豊富である。

(3) 豊富な交流実績

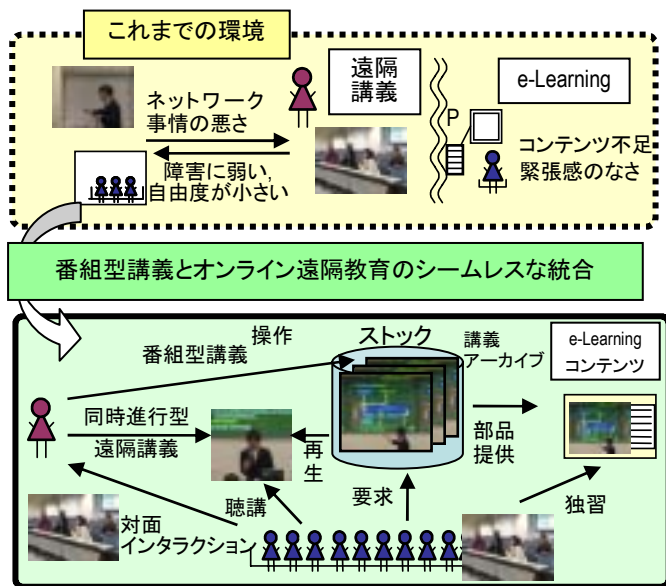


図 ハイブリッド遠隔講義のシステム概要

本研究科は研究科レベルで世界の33大学工学系学部・大学院と既に交流協定を結んでおり、その数は今後も増える見込みである。専攻レベルでも多くの交流協定が締結されており、研究者間の交流のみならず、学生の派遣・受入れにおいても大きな実績を持っている。これらに加えて、対マレーシア (JSPS-VCC)、対中国 (JSPS-MOE) との拠点大学方式の交流を実施している。他、JSPS先端研究拠点事業、マラヤ大学-清華大学-京都大学工学研究科との間での、e-ラーニング講義、清華大学深センキャンパスに設けた寄付講座を拠点にする活動など、優れた交流実績を有している。

4. 教育・研究指導体制

(1) 指導体制

学生は、入学後直ちに個々の専門分野に応じた研究室に配属され、専門的研究の手法と必要な基礎知識を習得するとともに、博士学位論文に関わる研究を実践する。留学生が所属する研究室においては、指導教員および研究室スタッフによるきめ細かい指導のもとに、順調に個別の専門的研究を実施し、専門分野における各論講義とあわせて、総合的かつ最先端の研究指導を行う。さらに、工学研究科に所属する留学生専門教育教員が中心となって個別カウンセリング、オリエンテーションを行う。

(2) カリキュラム

本研究科では、総合工学における広範な領域をカバーする英語による講義を、9講義18単位分の英語による講義を開講している。英語科目のみでも留学生が博士後期課程を修了するために必要な6単位を選択・確保できる状況となっている。特に、本研究科は、工学に関する広い研究分野において、世界を先導する優れた教育研究実績を有する教員団を擁していることから、その特徴を活かして、複数の専攻に所属する教員による専攻横断型の講義を提供している。

一方、京都大学国際交流センターが提供する日本語教育の他に、工学研究科では総合工学特別コースの留学生を対象に独自に日本語（初級及び初中級）教育を実施する。

さらに、わが国の工学技術や文化への理解を深め、工学の学修・研究に対する意欲をさらに喚起するために、留学生向けの研修（見学）旅行を実施する。専攻レベルでの留学生交流会等を実施し、留学生相互あるいは留学生と日本人学生間の親睦と連携を図る。

5. 使用言語

英語（学位論文の指導は英語で行う）

6. 募集方法、学内選考方法

(1) 募集方法

研究科ホームページによる研究内容とコースの紹介を実施し、応募書類は研究科ホームページからダウンロードできる方式とする (<http://interex.kuee.kyoto-u.ac.jp/IntC/ic-doctor.html>)。

文書などによる公募に加えて、工学研究科が有する国際交流事業や海外拠点、工学研究科教員が有するネットワークを活用し、現地に於ける事前面談を介する本コースへの応募勧奨を拡充する。

なお、Preliminary applicationの締切は11月末とし、本申請は2007年1月12日とする。

(2) 学内選考方法

本申請プログラムにおける選考は、総合工学専門委員会が、提出された学部・大学院在学時の成績証明書ならびに修士論文や研究計画書などに基づいて、必要な基礎学力・語学力ならびに専門分野における経験、実績を慎重かつ厳正に審査して実施する。